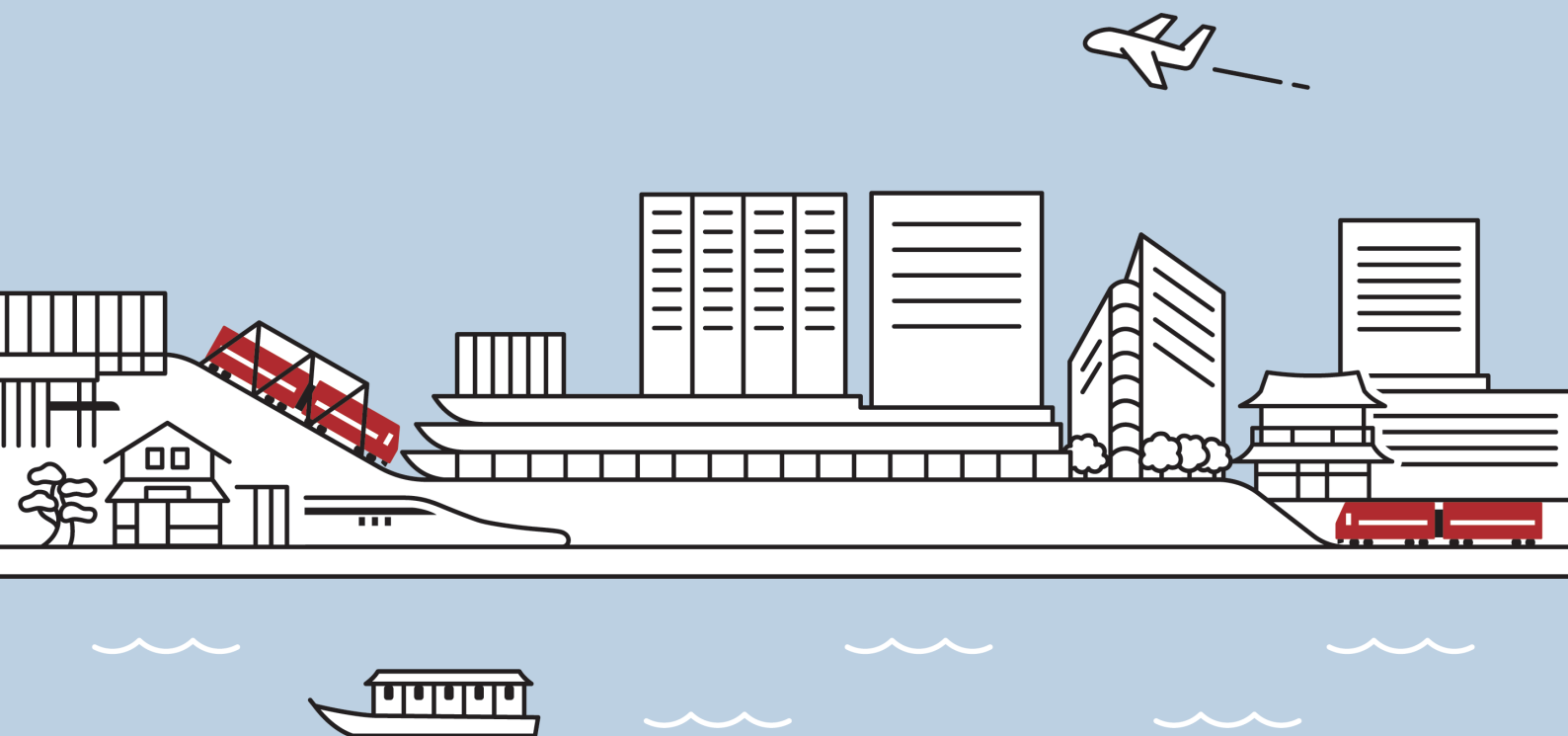


SHINAGAWA

By Keikyu Corporation

京急電鉄が描く 品川の未来



こころと世界を動かすつながりの湊

「品川」は古来より海に面し、ヒトやモノが集まる「湊」でした。私たちはその歴史を発展させて「こころと世界を動かす場所」「人々の交流からつながりを生む場所」をつくりたいと考えています。そんな思いを込めて、品川の目指す姿を「こころと世界を動かすつながりの湊」と決めました。

「こころと世界を動かすつながりの湊」の実現に向けて、そこに込める思いを「品川未来ビジョン」という形にまとめました。これは、京急グループが一体となり取り組む指針であり、外部パートナーの皆さまとともに形にしていきたい理想でもあります。



CONTENTS

- 2 品川未来ビジョンとは
- 4 品川未来ビジョンに掲げた3つの方針
- 6 品川未来ビジョンを導いた3つのステップ
- 8 プロジェクトに参加した社員の声
- 10 品川駅周辺の開発・基盤整備について
- 12 品川駅西口地区A地区について
- 14 品川駅街区地区・鉄道事業等について
- 16 経営計画における位置付けと環境配慮
- 18 社長メッセージ

品川未来ビジョンに 掲げた3つの方針

私たちは「こころと世界を動かすつながりの湊」の実現に向けた3つの方針を定めました。
長期的な視点で未来を見据え、いま自分たちができること、やるべきことを考えながら、一歩ずつ前に進んでいきます。

Experiences that appeal to all five senses

方針 1
「五感に魅せる体験」から
しあわせを生むまち



Unexpected encounters

方針 2
新しい発想や遊び心につながる
「思いがけない出会い」があるまち



Creating systems that contribute to a better society

方針 3
小さな想いを集め
「社会を良くする仕組みづくり」を導くまち



1 リアルな場所でしか味わえない、 感動と体験、人と人とのつながりを育みます。

高輪の緑地や品川浦といった自然的環境と東海道品川宿の名残などの歴史に人々の感性や遊び心が重なり合い、ここでしか感じられない気づきや五感で受け取る刺激が生まれます。

また、「おもてなし」や人が集う場所としての特性を磨きながら、様々な文化や考えを結びつけ、互いを受け入れて共に生きる、あたたかな雰囲気や育んでいきます。友人や家族

との絆が深まり、新たな出会いが生まれるこのまちでは、住む人と訪れる人が交流を重ね、まちの活動や個性を認め合い、刺激し合う関係が広がっていくでしょう。

ここでしか味わえない心躍る体験、五感に魅せる新鮮な出会いや驚きを大事にしながら、世代や背景を超えた人々のつながりが溢れるまちを目指します。

3 一人ひとりの声が、既存の枠組みでは解決困難な課題に取り組む主体とともに、 社会を創っていきます。

通勤・通学者、観光客、ビジネス客、そして通過点としての利用者まで、品川を訪れるすべての人に対し、課題の本質に気づききっかけを届けます。一人ひとりの意見や想いを受け止める環境を整え、小さな声を積み重ねていきます。

集まった考えや発想を拾い上げ、課題解決を志す幅広いコミュニティや、品川に拠点を置く企業、地域に根付いた団体が

手を取り合い、対話を通じて新たな仕組みづくりへとつなげていきます。こうしたルールの改善は、これまでになかったビジネスを生み、社会課題解決に向けた動きが加速するでしょう。

世界的な課題から地域ならではの課題まで、率直な疑問や想いを持つ人々が集い、より良い社会を創り出していく。そんなきっかけとなるまちを目指します。

2 面白いヒト・モノ・コトとの出会いから、革新的なアイデアが生まれ、 未来のビジネスを創造する拠点を創ります。

品川にすでに息づく「珍しさ」や「面白さ」を持つヒト・モノ・コトを磨き上げ、自然や歴史を大切にしながら、国内外への優れたアクセスを活かして、最先端の技術や多彩な創造活動、世界中の文化や知恵を集めていきます。

駅などの拠点から広がる仕掛けや偶然の出会いを演出する工夫によって意図的に生み出された「たまたま」から生まれ

る感情や気づきが、既存の枠にとらわれない新しい発想を引き出し、やがて新たな文化や価値を生む土台となっていくでしょう。ここでは、企業にとって予測を超えたイノベーションを生み出すチャンスが広がっています。

創造性溢れる人々が集い、出会いから革新的なアイデアが次々と形になる。そんな意欲に満ちたまちを目指します。

考察と対話で方針を導き出した 3つのステップ

品川未来ビジョン実現に向けた3つの方針は、このようなステップを経て決定しました。

STEP 1

2050年の暮らしや価値観を考察する

まずは、私たちが取り組む各種プロジェクトが安定的に機能しているであろう「2050年」の人々の生活や価値観はどうなっているのか、将来社会における本質的な変化の方向性を考察しました。



AIやメタバースがリアルな取り組みを代替するとともに、個人の価値観が尊重されるようになる

- # デジタル化
- # 機械化・AI
- # 没入体験
- # 価値観重視
- # 移動の減少
- # 自由時間の増加

例えば、こんな未来

パーソナライゼーションを好むZ世代が消費の中心となる ※1

※1：消費者庁新未来創造戦略本部新未来ビジョン・フォーラム事務局，2024，「消費生活の未来に関する調査報告書」。

AIやロボットが人間の労働を置き換える一方で、イノベーション人材を育てることが必要になる

- # 労働者不足
- # シングularity
- # 仕事の変化
- # 消費需要減少
- # 潜在成長率低下
- # GDP成長の鈍化

例えば、こんな未来

生成AIがプレイヤー間の競争激化やコモディティ化を加速させる ※2

※2：みずほ銀行産業調査部，2023，「生成AIの動向と産業影響【総合編】」。



解決困難な社会課題や次世代産業の登場に合わせて、ルールメイキングの取り組みが主流化ようになる

- # 深刻な社会課題
- # 地球環境の悪化
- # 新産業の拡大
- # 価値観の共有
- # 社会受容性
- # Web3 (Web3.0)

例えば、こんな未来

地縁等のコミュニティから価値観に基づくコミュニティへ ※3

※3：国土審議会計画推進部会住み続けられる国土専門委員会，2019，「2019年とりまとめ～新たなコミュニティの創造を通じた新しい内発的発展が支える地域づくり～」。



STEP 2

2050年の都市の役割やあるべき姿を導き出す

STEP1で導いた2050年の生活や価値観を踏まえて、まちや都市はどのような役割を担うべきなのか、その「兆し」を見出しました。この「兆し」が3つの方針を作成するベースになっています。



デジタル化が進むなか、贅沢になるリアルな活動には、固有の意味や価値・幸福感が求められる社会に

本質的な価値があるコンテンツだけが選ばれるようになるからこそ、不確実性や偶然性、リアルな出会いや対話が深い意味を持つようになり、ストーリー性を有する文化や伝統も存在感が増すと考えます。

人々の自発的な思考や行動力が弱まるなかで、企業は価値創造の場を見直し模索する社会に

誰もがAIからのレコメンド機能を受け取る日常生活に慣れて、イノベーションを探索するきっかけを失うからこそ、企業は「様々なきっかけの提供」「新たな生産活動の場のあり方」を模索すると考えます。



企業・国家では解決できない課題が残るなか、ルールの形成や撤廃に向けた動きが広がる社会に

経済、医療、自然環境など、既存の制度では解決できない課題が明確化していくからこそ、その解決に向けて世論や地域社会から声が上がリ、時代に合った仕組みが生まれていくと考えます。

STEP 3

未来予測に「品川」と「京急」だからこそその要素を掛け合わせる

STEP2で導き出した「兆し」をベースにして、そこに「品川」の特性と「京急らしさ」を加えることで、私たちが描く品川未来ビジョンの3つの方針が完成しました。

品川の特性

- # 多主体の連携・共創によるイノベーションの基盤
- # 世界とつながり多様な人々を受け入れる迎賓・交流
- # 歴史と自然の価値を未来に繋ぐ継承と推進

京急らしさ

- # 学びながら進取・挑戦に取り組む精神と、バランス感覚
- # 地域との共生・共援・共愛の関係を育む、地元の活動主体
- # こだわりと遊び心を両立させる風土

社員の声が響き合い 形になった 品川未来ビジョン

ここまで行ってきた未来予測やそれらを基にした品川未来ビジョンの作成には、入社1年目の若手から社長まで様々な視点や経験を持ち合わせた総勢100名以上の社員が参加しました。メンバーの感想をお届けします。

年間スケジュール

- 2024年3月
プロジェクトが始動
- 2024年6月
社内関係者との打合せを開始
- 2024年8月
プロジェクトメンバーとの意見交換を本格化
- 2024年12月
取締役会にて議論を実施
- 2025年1月
取締役会での議論を踏まえて最終版を作成
- 2025年3月
最終版を取締役に決議

Q 品川の好きなおとこやイメージは？

豊かな
自然環境

交通アクセスの利便性

リニア開業や
大規模開発
による変化の過程

歴史ある
迎賓都市

インバウンドが多い これから 都内で最も発展 していくエリア

オフィス街の洗練された 都会的な雰囲気 と

東海道旧宿場町がもつ 歴史文化が共存 しているところ

オフィス、住宅、緑、文化の融合

ができる可能性を秘めたまち

東京駅を超える
ポテンシャル
を感じるまち



品川開発推進部（品川開発担当）
課長

Q1

日頃の業務内容を
教えてください

A1: 品川駅周辺全体街づくりに関する
関係事業者・行政等との調整

A2: 多くの参加者がいるなかで、想像以上
に多様な意見がありました。例えば、「京急らしさ」
について、「保守的」と感じる人もいれば、「新しい
ことに挑戦的」と捉えている人もいて驚きました。
年代や経験した業務などの違いを超えて、その多
様な考えを結集し、これからの「京急らしさ・品川
らしさ」を形にしていきたいと思ひます。

Q2

品川未来ビジョン作成に参加して、
特に印象に残った出来事や
学びは何ですか？



建設部（品川連立・泉岳寺駅担当）
担当課長

A1: 品川連立事業に係る工事推進
および関係者協議

A2: プロジェクトが始動した当初は品川
の未来をうまく思い描けませんでした。しかし、
考えを巡らせるうちに、「品川がこうなったらう
れしい、みんなも喜ぶだろう」というシンプルな
願いに辿り着き、自分なりの未来ビジョンにつな
がりました。日々の業務は、「人々の笑顔のため
にある」ということも、改めて認識できました。



新しい価値共創室（エリアマネジメント推進担当）
担当部長

A1: エリアマネジメントによる
沿線の価値向上

A2: 大規模な再開発が進む一方で、旧東
海道の歴史ある街並みや屋形船が行き交う水辺
空間など「南側」に眠る個性がさらに磨かれて
いくと感じています。新しいオフィスビルが立ち
並ぶだけではなく、京急ならではの情緒ある豊
かな品川の魅力を引き出すことで、他のどのエ
リアにもない独自の価値が生まれると期待して
います。

Q1

日頃の業務内容を
教えてください

鉄道統括部（事業統括課）
担当課長

A1: 鉄道本部内の予算管理、
運賃に関する事項、鉄道事業戦略推進

A2: 品川駅周辺が、人とまちが調和する
魅力的な空間へ進化していく未来に、大きな期
待を抱えています。リニア中央新幹線の開業や地
下鉄の新たな乗り入れなども計画されており、多
様な人々が集う魅力あるエリアへ育てていき
たいという思いが強まりました。プロジェクトの
実現に向けて組織のモチベーションもさらに高
まっています。

Q2

品川未来ビジョンの実現によって、
品川駅周辺がどう変わり、
どんな価値が生まれる
と思いますか？



品川開発推進部（品川建築担当）
主査

A1: 品川駅西口地区A地区の
施工調整業務

A2: 今回の未来ビジョン作成は、品川を
どのようなまちにしていきたいかを改めて考
える良い機会になりました。日頃の業務では建
物のハード面を担当しているため、これまで
は建物単体が目向きがちでした。しかし、ま
ち全体をどのようにつくりあげていくかを見
つめ直したことで、これまでより広い視野を
持つようになりました。



新しい価値共創室（価値創造担当）
課長補佐

A1: 新規事業開発、
オープンイノベーション推進

A2: 歴史や先人の取り組みの振り返り
は、「これからの京急らしさ」を捉え直す貴重
なヒントでした。未来ビジョン策定に参加し
て、「品川の未来」や「社会の未来」をより具
体的に想像できたと感じています。過去と未
来、そこに社員一人ひとりの想いや多様な
価値観を重ねて、まちの未来を形づくるプ
ロセスそのものが大きな学びでした。



品川開発推進部（品川事業担当）
主査

A1: オフィスの企画検討、商業リー
シング、LEED認証取得に向けた調整

A2: 私たちの生活を構成する要素は、働
くことだけではなく、娯楽、交流、食事、健
康、移動など多岐にわたり、そのあらゆるも
のが発展していくということを未来ビジョン
作成に参加してより実感することができまし
た。幅広い事業を持つ京急グループだからこ
そ、その発展に中心となって関わり、品川
の未来を築いていけると感じました。



品川開発推進部（品川開発担当）
課長補佐

A1: 国道拡幅に伴う用地売却協議、
区画整理事業関連の対外協議

A2: 現状の品川は「働く街」「羽田空
港への玄関口」としての印象が強く、滞在目
的は多くないようです。しかし、今回の開発
に含まれる羽田空港へのアクセス向上やリ
ニア中央新幹線の開業などによって交通結
節点としての役割がこれまで以上に高まる
とともに、「訪れる目的があるまち」「滞在
したいまち」に変化していく可能性に注
目しています。



品川開発推進部（品川事業担当）
主査

A1: 品川駅西口地区A地区の
商業用途における企画・リーシング

A2: 品川駅周辺は交通アクセスの向上
にとどまらず、国際交流拠点として再構築
され、商業・ビジネス・観光が融合する未
来志向の都市空間へと進化していきます。国
内外からの人・情報・文化がさらに集まり、
新たな感動や体験が生まれることで、日本
を代表する都市としての魅力がより一層高
まると思ひます。



経営戦略室（IR担当）
課長補佐

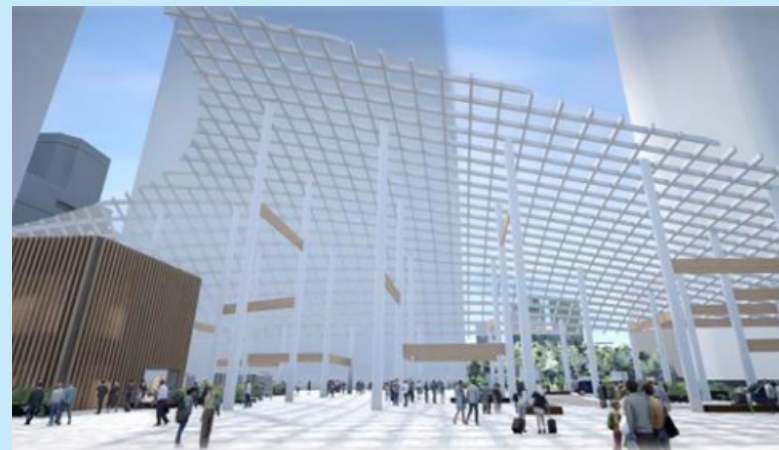
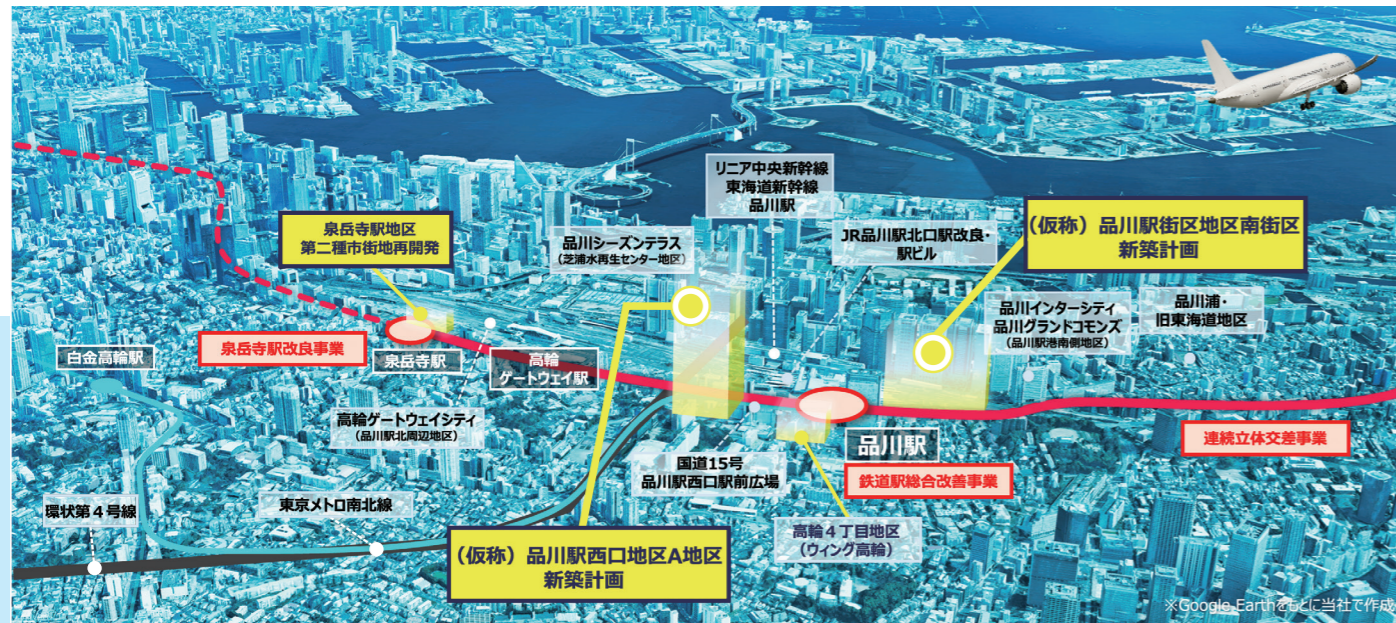
A1: 機関投資家への情報開示・対話・
社内へのフィードバック

A2: 国際ビジネスや観光のハブ機能が
一層強化されるだけでなく、新たな文化や
価値を生み出す場としての発展も期待して
います。さらに、企業誘致や産業支援拠
点の形成が進むなど、当社線沿線の重要
な拠点である品川の街が進化を続けるこ
とで、沿線全体の活性化につながり、ひ
いては企業価値の向上に資すると考
えています。

新たな基盤づくりで進化する、品川駅のこれから

品川未来ビジョンの実現に向けたまちの開発は、私たちだけで進めるものではありません。地元行政や他社とも力を合わせ、世界中の人々を迎える国際拠点としての存在感、そして首都圏の主要エリアをつなぐ優れたアクセス性を備えた品川駅。恵ま

れたポテンシャルは、これからさらに進化していきます。



出典：東京国道事務所 HP

01 国道15号品川駅西口駅前広場の整備

国土交通省東京国道事務所は、道路上空を活用した道・駅・まちをつなぐ駅前広場の整備を進行中です。多様なモビリティのシームレスな乗換を可能にする人が主役の都市交通ターミナルを目指しています。



出典：JR 東日本 HP

03 JR品川駅北口の駅改良

JR 東日本は品川駅北口の改良で、コンコース内に2か所の改札を新設し通路を拡幅。混雑緩和と港南口への移動時間短縮を図ります。バリアフリールート拡充のため、北側コンコースと各ホームを接続するエレベーターが8か所増設する見込みです。

02 環状第4号線の整備

東京都は事業認可を環状第4号線（港南・高輪・白金区間）で取得し、未整備区間とその延伸部の用地取得を進めつつ、一部工事に着手しています。本路線は、品川・羽田・臨海部・六本木方面へのアクセス向上や、広域道路ネットワークの形成、開発に伴う交通処理を担うことが期待されています。



出典：東京都第一建築事務所 HP



提供：京成電鉄

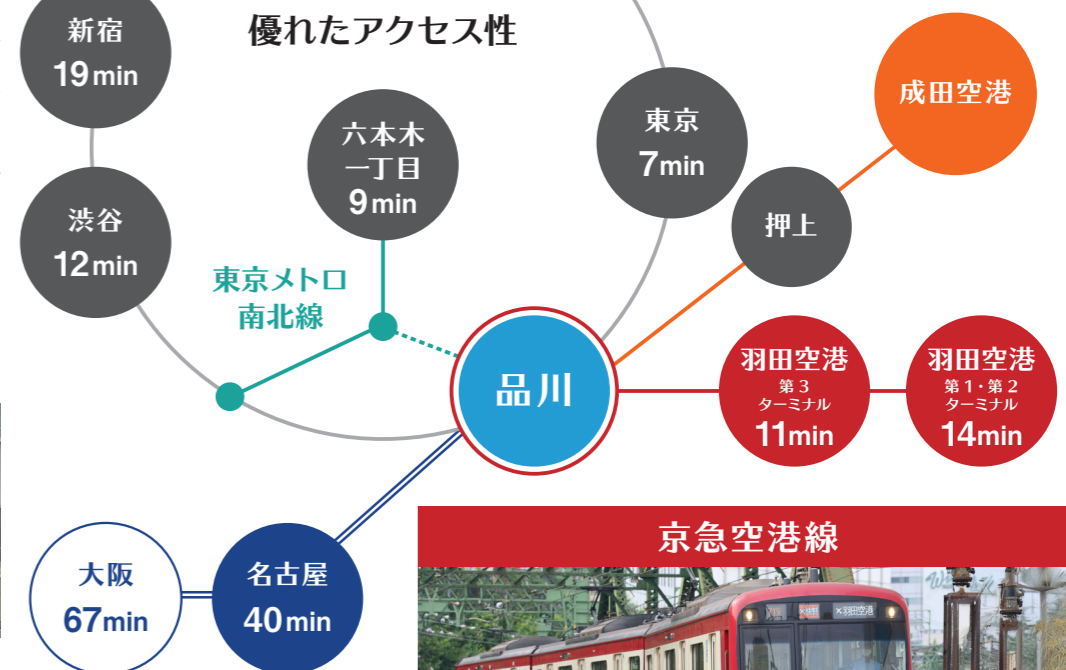
東京メトロ南北線 六本木方面まで約9分

東京メトロ南北線を白金高輪駅から品川駅方面へ2.5km延伸する整備が進められています。2030年代半ばには品川駅から六本木一丁目駅へのアクセスが約9分で可能となる予定です。品川エリアから六本木・赤坂エリアへのアクセス利便性は飛躍的に向上します。



提供：東京メトロ

世界・日本・都心からの優れたアクセス性



成田スカイアクセス線

成田空港までスピーディーに

京急線は都営浅草線・京成線・成田スカイアクセス線と相互直通運転を実施しており、品川駅から成田空港駅まで乗り換えなしでアクセスできます。京成電鉄は2028年度に成田空港と押上駅を結ぶ新型有料特急を導入すると発表しています。品川駅から押上駅で乗り換え、この列車を利用すれば、成田空港まで従来よりも短時間でアクセスが可能となります。首都圏空港の玄関口として、品川駅の役割はますます高まっています。

リニア中央新幹線

名古屋へ最速40分 大阪まで最速67分

今後開通が予定されている、品川～大阪間を結ぶ「リニア中央新幹線」は、品川駅が始発駅。名古屋まで最速40分、大阪まで最速67分という飛躍的な短縮が実現します。そして、日本中央回廊の基幹インフラとしての役割が期待されています。



提供：JR 東海

※新宿駅・渋谷駅・東京駅・羽田空港駅への日中時間帯所要時間、六本木一丁目駅への南北線の延伸開業後予測時間、名古屋駅および大阪への現時点で公表されているリニア中央新幹線所要時間を記載しています。



京急空港線

羽田空港まで最速11分

京急線を使えば、品川駅から羽田空港まで乗り換えなしでアクセスできます。現在進行中の品川駅の2面4線化工事と、羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線工事が完了すると、運行本数の増加が可能で、待ち時間のストレスなくいつでも羽田空港へアクセスできる環境が整います。また、品川駅のエレベーターの増設により、スーツケース移動もよりスムーズになります。

大規模複合施設 品川駅西口に誕生

(仮称) 品川駅西口地区 A 地区新築計画

緑や歴史といった優れた資源に恵まれ、環境都市、観光ハブ、地域の交流拠点としての高いポテンシャルを持った品川駅西口地区。京急電鉄では同地区において、品川駅の新たなランドマークとなる「(仮称) 品川駅西口地区 A 地区新築計画」に着手しました。このビルでは共同事業者であるトヨタ自動車が「新東京本社」を開業します。

設計概要	
敷地面積	23,584㎡
延床面積	311,802㎡
階数	地上29階・地下4階
建物高さ	152m
竣工	2029年(予定)



▶ 人・モノ・技術が交わる 新たな交流拠点となる商業施設

建物の地下1階から4階にかけては商業施設を展開予定。周辺に暮らす方々や来街者に、高輪の緑とつながるシーンや新たな体験、交流の場を提供することで、人・モノ・技術が交わる新たな交流拠点となる商業施設を目指します。そのほかに国内最大級のフロア面積を持つオフィス、音楽ライブや演劇などのイベントを開催できる多目的ホール、都心最大規模のコンファレンスホールやラグジュアリークラスのホテルなどを導入予定。「感性を刺激する場と機会の提供」をテーマに、魅力あるまちづくりを推進していきます。

▶ こだわりの外観、 屋外空間デザイン

外観デザインのコンセプトは「Flow (流れ)」。東京湾から吹き込む風の道を確認するため、建物の形状は角の丸い台形に。タワーの低層部にはスカートのような広がりを持たせました。この大きな庇(ひさし)は、雨風を防いで人々を建物に優しく迎え入れると同時に、近隣地域と品川駅を効果的につなぎます。また、屋外空間では、緑に囲まれたベンチの設置などにより静かにつづげる憩いの場を提供する一方で、大規模なイベントを開催できる広場も整備して、自然と賑わいが共存する、地域に開かれた空間をつくります。

▶ 品川駅からシームレスなアクセス

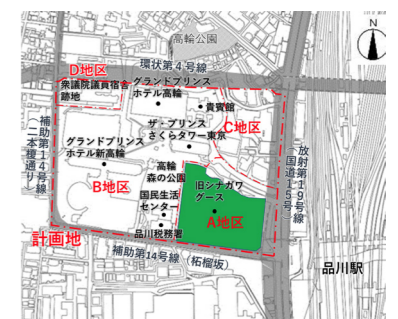


品川駅高輪口とデッキを介して直結。わかりやすい動線でアクセス可能です。また、駅からの利用だけでなく、バス乗り場からも利便性が向上します。



▶ 品川駅西口地区で一体となったまちづくりの推進

品川駅西口地区では、学識経験者監修のもと地権者等の総意において、「品川駅西口地区まちづくり指針(高輪三丁目地区)」を策定しました。同指針においては「世界の人々を迎え入れる品格ある迎賓都市・開かれたまちへの転換」をまちづくりのコンセプトとして掲げ、段階的かつ一体的な市街地の形成を図っています。



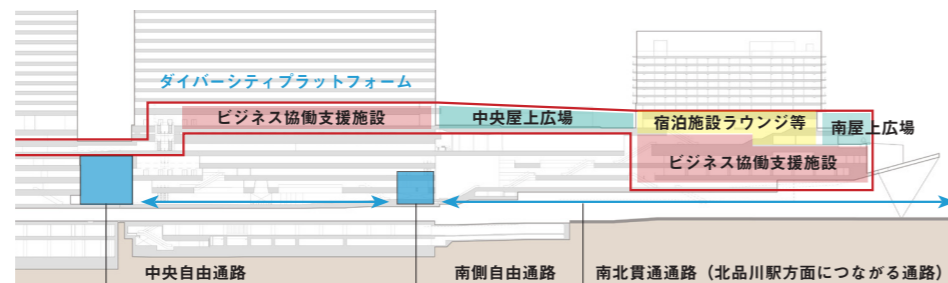


駅 の 概 念 から 抜 け 出 した

「 新 た な え き ま ち 」

品川駅街区地区(南街区)における開発計画

個性ある周辺のまちをつなぎ、多様な交通モードを結び、時代を先取りする「新たな価値」を生み出す空間を創出します。



東西南北移動しやすく乗り換えも快適に

電車を降りてから目的地まで、もっと快適に。歩行者ネットワークの再編・拡充により、駅のどちら側へもスムーズに行き来できるようになります。また、京急線、JR線、リニア中央新幹線、東海道新幹線、バス、タクシー、地下鉄や新たなモビリティなどをシームレスにつなぐ昇降施設などを整備することで、交通結節機能をより強化します。

世界中から人が集まる新しい出会いと創造の拠点づくり

多様な人々が出会い、新しい価値の創出・発信に取り組む拠点として「ダイバーシティプラットフォーム」を整備。多主体協働プロジェクトを生み出す「ビジネス交流施設」や、新技術・新製品を生み出す「ビジネス協働支援施設」を設置し、価値創出を推進します。



品川で進むプロジェクト

品川駅西口地区や駅街区地区のほか、様々な形で品川のまちをつくるプロジェクトを推進しています。

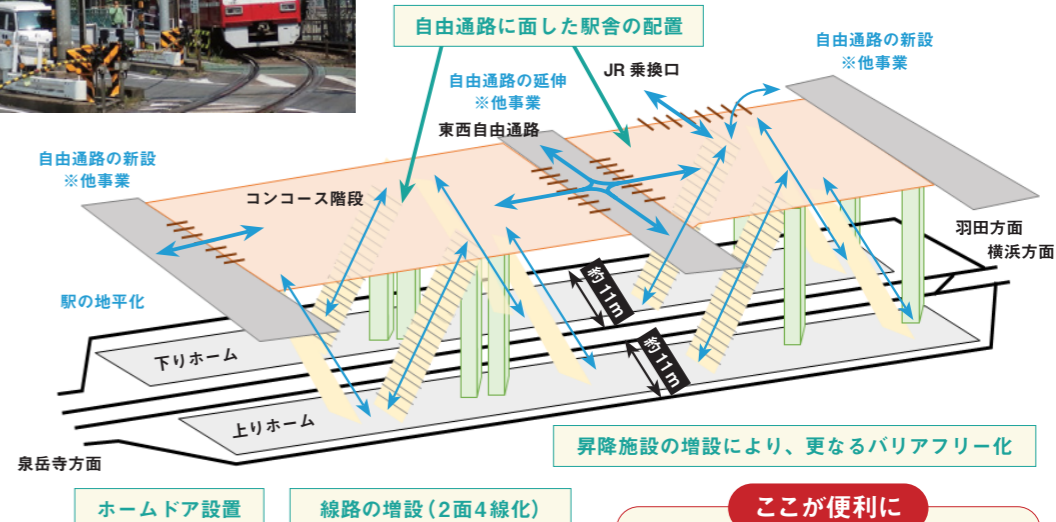


京急本線(泉岳寺駅~新馬場駅間)連続立体交差事業

東京都を事業主体として、京浜急行本線の泉岳寺駅から新馬場駅までの約1.7km区間の道路と鉄道の連続的な立体交差化を進めています。これにより、3か所の踏切を除却。渋滞の緩和や事故の削減などを目指しています。

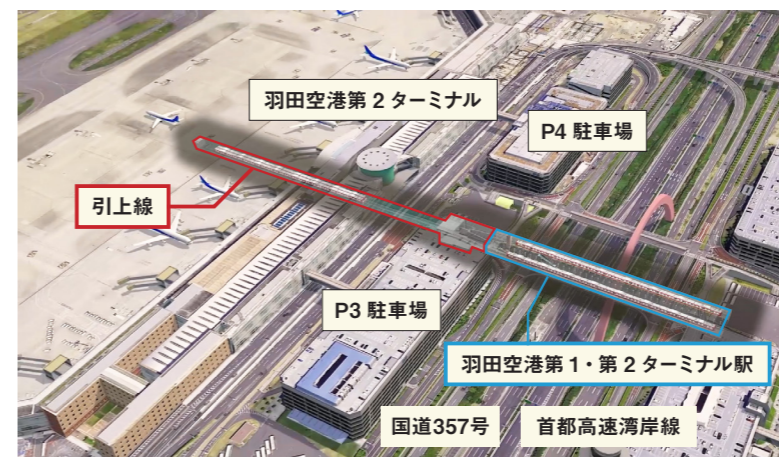
品川駅総合改善事業

線路の増設(2面4線化)、自由通路に面した駅舎の配置、ホームドア設置、昇降施設の増設などを実施。利便性や安全性の向上を図ります。



ここが便利に

- ▶ 羽田空港方面と横浜方面のホームが分離されて電車に乗りやすくなる
- ▶ 大きい荷物を持った状態での移動がしやすくなる
- ▶ 羽田引上線の工事完了と併せて、羽田空港方面の電車が増便される



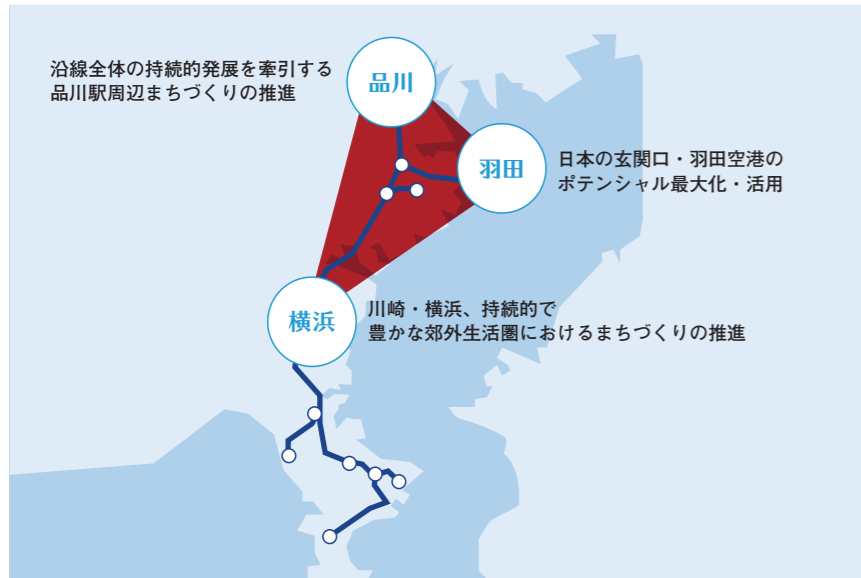
羽田空港第1・第2ターミナル駅 引上線

羽田空港の国際競争力強化に向けた取り組みとして、列車の入れ替えを行う引上線の工事を国土交通省関東地方整備局、東京航空局とともに進めています。

泉岳寺駅地区第二種市街地再開発事業

東京都が施行する「泉岳寺駅地区第二種市街地再開発事業」に、東急不動産と京急電鉄で構成されるコンソーシアムが特定建築者として参画しています。羽田・成田空港の利用客が行き交う泉岳寺駅周辺において、鉄道施設や幹線道路などの都市基盤と一体的なまちづくりを進めるべく、泉岳寺駅コンコース接続による駅機能強化などを実施予定です。





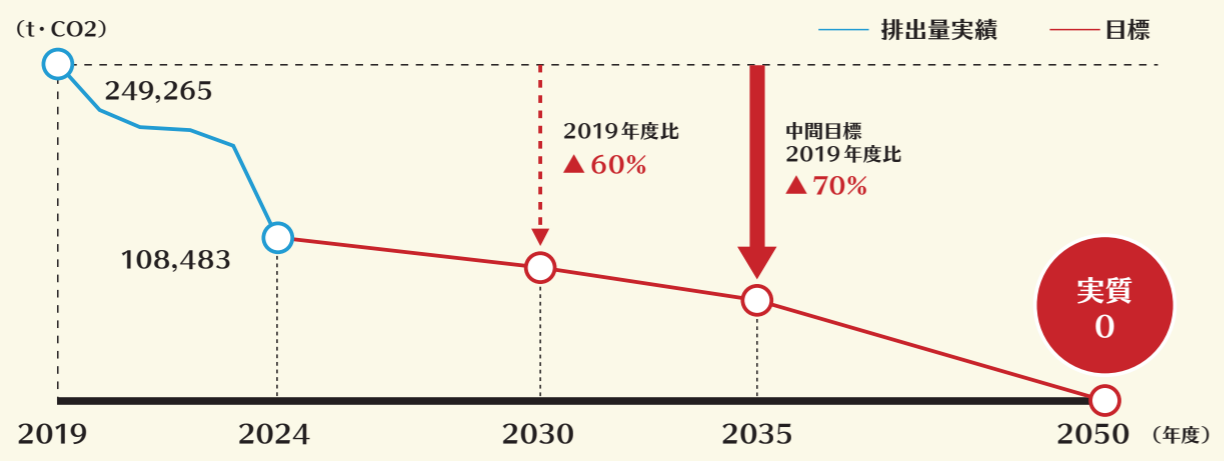
京急グループの発展を牽引する「成長トライアングルゾーン」

品川と各エリアとの相互連携によって、沿線の活性化を図る

「陸の玄関口」である品川、「空の玄関口」としてアジアを代表する空港に発展する羽田、そして産業転換や大型客船受入れ施設などの整備が進む「海の玄関口」横浜。これら3つのエリアを結ぶ「京浜臨海部」は、日本の成長を支えてきたエンジンであり、当社グループの原点です。

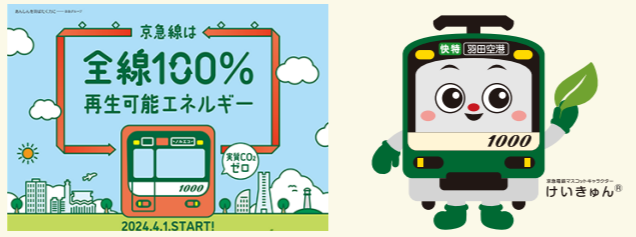
当社ではこのエリアを「成長トライアングルゾーン」と位置付け、そのポテンシャルを推進力として、京急沿線全体の発展・活性化を目指す総合経営計画を推進しています。なかでも、今後大規模な開発が行われ、交通網のさらなる進化により飛躍的な発展が期待される品川エリアは、中期経営計画において特に重要な位置を占めています。

持続可能な世界を目指した、自然環境に関する様々な施策



長期環境目標 「京急グループ2050年カーボンニュートラル」の推進

当社グループは、脱炭素社会の実現に向けた長期環境目標として「京急グループ2050年カーボンニュートラル」を掲げ、当社グループ全体での温室効果ガス排出量実質ゼロを目指しています。カーボンニュートラルに向けた大きな施策として、2024年度より、京急線全線において運行に使用する電力を再生可能エネルギー由来の電力に置き換え、CO2 排出量実質ゼロで運行しています。この取り組みによる効果は、年間約10万トン、一般家庭に換算すると約39,000世帯分のCO2削減に相当します。



自然資本・生物多様性保全

当社グループでは「小網代の森」や約100haの社有林の管理・活用を行う「みうらの森林（もり）プロジェクト」等を通じて、自然資本・生物多様性の保全を行っています。自然資本・生物多様性の保全に関する施策を推進するために、当社は2025年6月にTNFDアダプター登録を実施しました。

品川における取り組み

品川駅西口地区のエネルギーを担う新会社設立

品川駅西口の再開発地区へ防災性と環境性に優れたエネルギーを供給することを目的として、東京ガスと共同で新会社「京急TG エナジーコネクト」を設立しました。災害時にも稼働できるガスコージェネレーションシステムを導入し、将来的には周辺地区にも供給を拡大予定。品川のまちづくりとカーボンニュートラルに貢献します。

品川駅西口地区A地区における環境配慮

日本の玄関口という象徴的な立地の開発であることから環境配慮をより一層重視。高輪森の公園への接続、樹木の保存・再移植など生物多様性保全にも力を注ぎます。オフィス部分は、建築分野で世界的に普及している環境認証システムの1つ、米国グリーンビルディング協会「LEED® BD+C:Core and Shell」においてGOLDランクの取得を目指しています。

品川駅街区地区南街区(南-a)における環境配慮

建物の省エネルギー化、自然エネルギーの有効利用、再生可能エネルギー由来の電力利用および蓄熱槽の整備等を通して、事務用途部分ではZEB Readyの基準を達成し、2030年においてカーボンハーフの実現を目指します。





受け継いだ思いとともに、 品川から未来を拓く

京浜急行電鉄株式会社
取締役社長

川俣 幸宏

の整備を決定しました。こうして1971年に品川総合開発の象徴として、またジャンボジェットの就航を目前にした国際化時代の要請に応える施設として、高輪のみどりの静寂を感じる「ホテルパシフィック東京」が誕生しました。また、同時期には都営浅草線との直通運転を開始し、品川の価値を飛躍的に高めました。

そしていま、半世紀のときを経て、当時の思いを受け継ぎながら、次世代の品川まちづくりが始動します。当社グループは「まちの顔となり、まちの発展をリードする役割」を新たな使命と捉え、品川駅周辺の事業に取り組みます。そのパートナーとして、トヨタ自動車様をお迎えしました。トヨタ自動車様はこの高輪の地を、モビリティカンパニーへの変革を推進する新たな拠点と位置付け、社外の多様なパートナーとの共創により「ヒトが集い、シナジーを生む場」として活用される予定です。当社の挑戦の歴史と立地特性が評価され、この地が選ばれました。

この地で育んだ挑戦の心を、次の時代へ

江戸時代、東海道の宿場町として栄えた品川。京浜電気鉄道がこの地に東京の起点を設けたのは、1904年に遡ります。1925年には現在のウイング高輪の地に「高輪停留場」を開設、駅構内に約20店舗を展開。駅ビルの先駆けとして地域に賑わいをもたらしました。1933年には現在の品川駅への乗り入れを果たし、交通の要衝としての地位を確立していきます。

戦後になると、当社は「品川駅周辺の整備をどこよりも率先して担うべき使命がある」との強い思いのもと、東久邇宮邸の敷地を取得。1年以上にわたる役員間の議論を経て、社会的要請に応える施設として、最先端技術を活用したホテル

人が出会い、世界を動かすまちを目指して

私たちが目指す品川の将来像は、「こころと世界を動かすつながりの湊」です。デジタル技術の進化により、効率的に価値を得られる一方で、現実世界の体験価値が相対的に低下しているのも事実です。しかし、五感を刺激する現実の体験は、デジタルでは再現しきれない「感情の深度」を生み出します。「偶然の出会い」や「思いがけない発見」が新たな価値やアイデアの源泉となり、表情や間合い、沈黙といった非言語的な要素が豊かな人間関係を育みます。このようなまちにおいて、当社は新しい価値共創室が中心となり、異分野の共創パートナーとの接点づくりを進めています。これを活かし品川では進出企業や地域の皆様、来訪者の皆様をつなぐ役割を担い、共創環境の整備に取り組むとともに、未来の社会を創る「社会を良くする仕組みづくり」を導いてまいります。

品川から広がる、新たな価値

交通の要衝として、日本全国、そして世界とつながる品川は、多様な人々が現実世界で集い交流する拠点となるでしょう。当社の長期ビジョンにおいても、「移動」を戦略テーマの一つに掲げており、地域との共創を通じて移動環境の最適化を図ってまいります。また、多様な新技術や価値観が交差し、新たな機会や関係が生まれることで、品川のポテンシャルは最大限に発揮されます。当社グループによるまちづくりの効果は、リニア中央新幹線や羽田空港を通じて全国へ波及し、東京という都市の競争力向上にも貢献します。さらに、当社グループは羽田空港、京浜臨海部、郊外住宅街、都市近郊リゾート三浦など、多様な沿線地域とのつなぎ役を担い、品川が生み出す価値を沿線全体へと広げてまいります。



品川と京急電鉄 120年の歩み

- 1898年

大師電気鉄道として創業

- 1904年

品川（ハツ山）停留場開業

- 1925年

高輪停留場
（高輪ビルディング）開業

- 1933年

省線品川駅へ乗り入れ開始

- 1968年

快速特急（現：快特）の
運転開始
品川～泉岳寺間開通
泉岳寺駅開業

- 1971年

ホテルパシフィック東京開業

- 1983年

京急第1ビルが完成
ウイング高輪営業開始

- 1998年

羽田空港駅（現：羽田空港第
1・第2ターミナル駅）開業

- 2010年

羽田空港国際線ターミナル駅
（現：羽田空港第3ターミ
ナル駅）開業

- 2011年

「SHINAGAWA GOOS（シナガワ グース）」、
「京急EXイン 品川駅前」開業

- 2022年

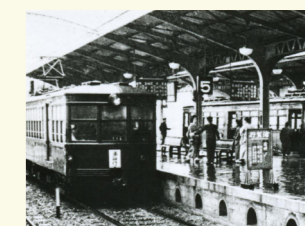
都市計画決定（品川駅西口地区A地区）

- 2024年

都市計画決定（品川駅街区地区南街区）

- 2029年

品川駅西口地区A地区開業（予定）



【ご注意】

本資料の掲載内容は、制作時に確認した情報をもとにしております。

最新の情報とは異なる場合がございますので、詳細や最新情報についてはお問い合わせ先にてご確認ください。

【お問い合わせ先】

京急ご案内センター

03-5789-8686

045-225-9696

(受付時間)

9:00～17:00 年末年始は休業

※営業時間は、変更になる場合がございます。

